

## 「高岡を前へ！まちづくりミーティング」意見交換要旨【伏木コミュニティセンター】

### 質問

自分は2歳の子どもがいるが、高岡市は子育てしやすい環境ではないと考えている。市長が説明した政策を決して否定するものではないが、子育てしやすいかというところではないと感じている。具体的に言うと、遊ぶところがない。室内で遊ぶところも公園もない。隣の射水市は高岡市より人口が少ないが公園はたくさんある。自分は伏木に住んでいるが、近くの公園にあるのは今にも壊れそうなシーソーや錆びたブランコしかなく、子供が安心して遊べる環境ではない。高岡市に遊べる場所を整備して欲しい。

### 回答

子供が安心して遊べる環境は、新しく作るだけでなく今あるものの有効な利活用も検討したい。かつての新興住宅地には公園が幾つかあるが、そういった地域ではご高齢の方が一人で住んでいる場合も多く、お年寄りの方々がそこまで散歩してきて、日陰で座ってお話ができる「福祉公園」のような考え方を取り入れていかなければならないと考えている。ご高齢の方々が元気でこのまちを支え、公園で子供が目の前で遊んでいるのを見守り、声をかけ合い助け合える環境を取り戻したいと考えているところ。

お話に出た公園については、連合自治会とも課題を共有しながら、古くなった遊具は修繕し、今あるものをどう利活用するか地域の皆さんと話し合いながら決めていきたい。

### 質問

伏木には多くの観光資源がある。しかし、各観光施設などの活動はバラバラで、伏木のアピールが不足しているという声をよく聞く。市役所の担当課が施設ごとに違い、連携が取りにくく、それらの施設を横軸でつなぐ仕組みがないことや、地域と連携して伏木の観光事業を推進する体制・組織がないことが原因と考えている。昨年末から、伏木観光推進センターを中心に、地元住民で意見交換会を重ねてきた。観光ポスターやパンフレットを作り、アピールには努めているが、民間だけでは限界がある。市役所には、人的支援を含めて、持続可能な体制づくりをお願いしたい。

### 回答

観光施設ごとに担当課が分かれている点について指摘いただいた。担当課が分かれているのは観光以外の視点の業務も持っているから、ということをご理解いただければと思う。一方で勝興寺と聞いて場所が分からない市職員はいない。勝興寺で行っている取り組みを市内部で共有して連携していく必要があると認識している。今年度新たに立ち上げた未来課は、基本的に担当を持たず、庁内の様々な課題に対して横断的に動いている。市職員と伏木の皆さんがご意見・アイデアを共有したうえで、市としてできる支援を検討したい。

## 質問

牧野地区は昭和 26 年に高岡市に編入した。当時の牧野地区の人口は約 2,600 人。現在は 9,000 人となっており、今後、12,000 人を目指したいと考えている。そのために小規模の単位自治会で考えるのではなく、枠を外して牧野地区全体で取り組んでいきたい。若い世代に住んでもらうために子育てに力を入れており、地域で子育てに取り組む活動を更に発展させていきたい。現在は子どもの遊び場が少なく、わざわざ市の中心部に行かずとも地元で遊べる施設が整備できないか検討しており、地域の基金の活用も考えている。子育て支援を充実することにより移住者が増えるのではないかと考えている。

## 回答

外国籍の方々が多く、国籍・言語・文化が様々であることなどによる課題もあるが、牧野地区には素晴らしい活動が多い。人口 12,000 人を目指すという明確な目標を出しているのも地区の特性である。牧野地区では、自分たちが持っている基金で子どもの遊び場をつくろうと地元の方々が動いておられることや、地域活動のために新しい組織を作っているという話も聞いており、今後の取り組みに期待している地域である。

## 質問

高岡にはアイデアを持っている人がたくさんいるが、ニーズを持っている方、アイデアを持っている方、実際に活動される方が繋がっておらずバラバラであるように感じる。こういう大きなタウンミーティングだけではなく、小さなコミュニティ単位で市民が繋がることができる話し合いの場を設けてほしい。

## 回答

市内だけを見ても、地域によって抱えている課題も違えば持っているインフラも違う。だからこそ、それぞれの地域で、ご自身のまちについて考える取り組みを今年度スタートする。今回は 3 地区選定し、地域担当職員を任命した。これは市の職員が実際に地域に入って、その地域の課題を地域の皆さんと共有し、議論しながら、一緒に考えていくという取り組みである。今後のタウンミーティングはグループワーク形式で、市職員が中に入ってそれぞれの地域ごとに課題を検討し、解決に向けて意見交換できるような場を考えていきたい。

近年、SDGs の推進という側面からも、企業の皆さんには地域貢献に目を向けていただいている。企業の方から、地域とどう連携したらいいか相談を受けたりすることも多くなっている。地域の方々が求めているニーズと、企業のシーズとのマッチングを図ることも市の業務である。民間企業の方々と一緒に課題を解決していく方法もあるので、地域で取り組みたい具体的な取り組みや、実際に取り組んでいる中で壁があると感じた事については、市に相談してほしい。

## 質問

伏木のまちに対する市長の思いを聞きたい。実際に取り組みを行って初めて課題・改善点を認識できることもあると思うが、それをどのように市政に反映するのか。

## 回答

伏木地区には、底力のある方がたくさんおられると思っている。力を貸していただいている部分も多々ある。様々な議論を重ね、知らない・できないことを減らしていくのは市長の大事な仕事だと考えている。当然やってみないとわからないこともたくさんある。令和4年度、高岡市で約30の実証実験をスタートさせる。失敗を恐れず、トライアンドエラーを市だけではなく地域の皆さんと一緒にやっていこうと、調整している。実証実験を本格事業に変えていけるのは市ではなく、地域の方々だと考えている。地域の方が便利に使えるようになるまで一緒に試行錯誤を重ねていくのが市の仕事と考えている。

## 質問

昔はこの地域にも公園があった。しかし、公園の遊具での子供の事故のニュースを受けて、高岡市内では次々と遊具が撤去された。今の公園には遊具が何もない。そこに危険がない遊具を増やしてほしい。

## 回答

最近おとぎの森公園に新しく導入されたインクルーシブ遊具のブランコは1台約500万円したが、個人からの寄附で設置した。油断できる財政状況ではないが、だからこそ、市民サービスを維持するためには寄附を募ることも重要である。平成28年には約6,000万円だった高岡市へのふるさと納税等の寄附が、企業からのものを含めると昨年度は5億円を超えた。返礼品の拡充も行い、話題性があるものを追加するなどの工夫をしてきた。今後も様々な仕掛けを行っていく。ぜひ皆さんのご協力もお願いしたい。

## 質問

今後のタウンミーティングについて、市長はどのような方針を考えているのか。担当者とコミュニケーションが取れる形にし、様々な方が意見を言えるように、アンケート用紙を配布してほしい。

## 回答

可能ならばそれぞれの校区でのタウンミーティングや副市長や部長、それぞれの部門と皆さんとで意見交換できる場などについて検討したいと考えている。ミーティングを開催するにあたり、事前に質問を受ける形は、質問の主旨を確認し、しっかりとした回答が準備できる点が良い。

また、市役所での対応等に関するご意見をお聞きするために、市役所1階ロビーに市長ホットラインを設置した。私が一番にメッセージを聞き、必要があれば担当課に指示を出

している。

市民の方と一緒に高岡を変えていかないといけないと思っている。皆さんからいただいた声、質問にしっかりとお応えし、一緒に活動していく。このような双方向の関係性を築いていきたいと望んでいる。

以上